

# 犬と触れ合って心癒やして

犬との触れ合いを通じ、心を癒やす「ドッグセラピー」。この癒やしを広めようと、北九州市のNPO法人が普及活動を続けている。現在はボランティアが主だが、普及を進めて事業化し、障害者の雇用にもつなげたいという。

NPO「ドッグセラピージャパン」を立ち上げたのは、同市小倉北区で犬専用のペット店を営む野田玖仁子さん(41)。3年ほど前、事情があつて犬を飼えない人たちが犬と触れ合える場所を作りたいと、店の2階に犬カフェを開設したところ、地元の医師や高齢者福祉施設からドッグセラピーへの協力を求められるようになったという。

ドッグセラピーには人手が必要なためボランティアを募った。活動を理解し、熱意もある20~70代の男女13人が集まり、今年から本格活動を始めた。月に数回、ボランティアで市内の介護施設などを訪問し、お年寄りに犬を抱いてもらったり散歩させてもらったりする。

「ほとんど笑わない」と言われる人が犬を見た途端に相好を崩したり、「リハビリ嫌い」と言われる人が犬に触れようとする命に手を伸ばしたり、施設職員も驚くような効果がしばしば表れるという。

県共助社会づくり基金の助成も決まった。今月から半年間、八幡東区の高齢者専用賃貸住宅で月1回のドッグセラピーを実施して、継続的な効果を検証する。

野田さんは、NPOの活動を障害者雇用に結びつけることに力を入れる。聴覚障害のある高校生の職場体験を受け入れたことが、きっかけだった。熱心に仕事に取り組む彼らの姿を見て「ハンディキャップがあつても、熱意があれば犬たちにも伝わり、良い仕事をつながる」と実感したという。

昨夏から、適応障害のある橋本陽子さん(25)を店で雇い、ド

野田さんは「活動の幅が広がれば、より多くの障害者雇用にもつなげられる。犬を通じて人々が癒やし、支え合う場を作っていく」と話している。問い合わせはNPO「ドッグセラピージャパン」(093・923・2128)へ。(吉田啓)



野田玖仁子さんを高齢者に見立てて、ドッグセラピーの訓練をする橋本陽子さん(左)=北九州市小倉北区